

平成 29 年度 バルツァ・ゴードル事業報告

看護療育部

【看護療育統括】

平成 29 年度看護療育部におけるスタッフ不足に関する問題は、事業会におけるリクルート活動およびホームページの活性充実化により看護師確保に関して言えば安心はできないが、配置人数に関し一昨年度に比べて安定を呈している。

それは、看護師で見ると 3 年で退職者が 3 名という定着率の良さから見ても評価できる。

またその他の要因として、3 年前より実施している、スタッフの目標面談とそれに伴って実施している研修体系が大きく影響していると考えられる。

病棟目標を旗印に達成に向け、目標設定とそれを達成するための研修会への参加は、スタッフのやりがいや達成感を呼び起し、結果的に仕事に対する満足感を認識して、定着率へ良い影響を与えたと考えられた。

しかし療育スタッフに関して、特に介護福祉士の見学・入職も含め 2 年ほど姿を見れていないのが現状で、一昨年度より療育業務を看護師が担っている。介護福祉士の養成校が 3, 4 年前より定員割れを起こしているという現状からも今後の療育スタッフの確保(無資格者・外国人スタッフ)への工夫が求められてきている。

昨年度の新入所者の目標 2 名は達成できたが、1 名の利用者の尊い命を失い、利用者の増員としては 1 名の増員に留まった。今年度も 2 名の新入所を目標に実践課題として持続継続は必須である。

ショート利用者数は昨年 12 月ではほぼ一昨年の利用者延べ数を超え、現在も多くの利用者がショートを利用している。

一昨年度からの持ち越し課題でもある① 1 階病棟への業務改善(レスピレータ導入)②看護師と療育との協働業務の確立のための業務改善の完成も今年度の必須課題の一つである。

今年度も社会福祉法人として地域への社会貢献として今年度の奈良県レスパイト事業への参画をはじめ看護学校、看護大学、介護福祉士養成校、等の臨床実習の受け入れおよび各種団体よりの施設見学対応など引き続き行いながら地域が求めるニーズに常に対応を目指す。

(平成 30 年度看護療育部目標)

- 1、利用者を尊重した質の高い看護・療育の支援を行う
- 2、安全な看護・療育環境の整備を行う。
- 3、専門職として知識・技術の向上を図る。
- 4、コスト意識を持ち、施設運営への参画を行う

【外来】

今年度は 1 名の外来担当看護師での業務の実践であったが、・外来者への診察介助・装具・座位保持装置作成介助・制作者と家族とのメッセージ業務などに課題もあり、今年度は各階からの 1 名ずつの外来担当看護師配置が必須と考える。

その他、地域や外部交流、他病院受診時の付き添いなど地域の交流を含めて充実する地域貢献を目指す。

【1 病棟】

1. 看護・介護の質の向上
 - 1) サービス支援内容の充実
- ・園外活動の実施

園外活動 実施期間：平成 29 年 4 月～11 月

春：4月・5月 秋：9月・10月・11月に実施

場所：奈良公園散策・猿沢周辺散策 雨時対応場所 光きつづ科学館 イオン郡山店

参加者：28名 新規入所者2名を含め全員参加

計画していた4月園外活動はウィルス感染の発熱で延期や、予定外の急遽の近大受診が入り4回変更せざるを得ない状況で5月末までずれ込んでしまった。

しかし、日程の変更はあるも計画通り全員参加する事が出来た。

参加した利用者の表情は穏やかで、一緒に参加された保護者の方ともに楽しまれているのを感じる事が出来た。

今後への課題として、園外活動日と近大の診察日が水曜日で重なる事が大きな課題としてある。

院外受診は移動支援を活用し、園外活動者が、利用者の不利益にならない体制の整備が必要と考える。

・療育活動は、年間計画に、毎月テーマをもち活動を行う事が出来た。予定以外に、ボランティアによるフルートのコンサートを実施する事が出来た。今後も、3大行事以外に、色々な触れ合いや楽しみが出来る催しを検討していく。

2) 看護・介護の充実に向けた業務改善

・療育、看護職員2名が約4ヶ月と長期の病気休暇の中で、療育活動が出来ない状況となり、療育の業務部分を看護師が担う事で業務や療育活動を乗り切る事ができた。しかし、業務を整理し、計画していた、ケースカンファレンスを充実させる部分まで行う事が出来なかった。職員がそろってき

た現段階で、次年度へ継続取り組み課題となる。

・各委員会の役割を担い役割意識を持つことが出来る。を目的に、病棟管理者や主任が参加する委員会へ、委員も参加する取り組みを行った。一例として、感染委員が委員会へ参加、ICTラウンド対応等の直接行う事で、伝達もスムーズに進み、改善等の内容もスタッフの協力も得やすい環境が出来た。管理者のみで行うより、スタッフと共にを行う事で、やる気につながる。負担にならない範囲で任せる事も必要である。

・平成29年のインシデント報告は下記の状況であった。

インシデントの中で、レベル1・2で治療や処置が必要なトラブルについては、インシデント報告用紙が提出されるが、0レベル内容の気づきや発見が、次のトラブル回避に繋がる内容の事もある。しかし、このレベル報告はほぼ口頭のみで用紙の提出が少ない。0レベルが多くなることで大きなトラブルを防ぐ事になると考える。

平成29年のインシデントの中で与薬に関する内容が多かった。与薬の問題は、治療へ直接影響を及ぼすので、対応策を直ぐに行うが同じインシデントが発生し改善にいたらない。スタッフの意識の共有化が出来ないまま進めても根本が変わらなければ改善に繋がらない。業務改善を進めるときインシデントカンファレンスや分析等の内容も加味し見直しを行う事が課題となる。

3) 看護・介護記録の見直し

・介護記録は、利用者個別のファイルを作成し整備できた。

看護記録については、記載要綱が整備できない中で、記載漏れを無くす事を中心に、何を記録として残すべきかをその都度対応していたが、まだ不十分な状況にある。記録の記載要綱を整備し、用紙の検討も含め次年度への課題となる。

2. 職場環境の充実

1) 人材確保と支援に向けた教育体制の充実

(1)) 既卒者 4 名に向けた入職時の業務への導入を計画的に実施しスムーズに進める事が出来た。

3 名はスムーズに行えたが、1 名は長期期間が必要であった。卒後の経験を加味しオリエンテーションや教育体制を調整する事がスムーズな導入に繋がる。今後文章化し活用できるようにする。

(2) 新人採用者の年間教育体制の確立

新採用者が居ないため、整備までに至らなかったが、準備は必要である。

2) 看護師、介護者の知識・技術向上に向けた研修企画と参加率の向上

・一人 1 回は院外研修に参加し、その学びをまとめる。を目標に研修計画を立案する。

研修内容は面接における希望に沿い計画する。研修参加計画で、病休による未参加者 1 名以外は全員参加出来た。計画以外に、計画以外にも必要だと思われる研修にも参加出来た、看護、療育共に職員は参加出来た。

・研修後報告にその学びをまとめられている。その中で、安全な爪切り技術研修に参加した 2 名は、院外に向けた講師として活動している、今後は身につけた学びや技術を現場でどのように活動を行うのが今後の課題である。

3. 経営への参画

1) 病床数確保に向けた、新規利用者の確保

・29 年は 7 月に新規入所者 2 名の受け入れ、退所者（死亡）1 名の平均 28 名で経過する。

しかし、定数 30 床を埋める事は出来なかった。病床利用率は平均 94%短期入所者を含めると 96%利用率であった。

2) 新規短期利用者受け入れ態勢の整備

・新規の利用者が増加、1 年間で 388 日の利用で述べ 97 名の利用有。 1 ヶ月平均述べ 8.1 名、32.3 日の利用有。利用者の中に夜間の呼吸器使用者、気管切開者も増加しているがトラブルなくスムーズに行っていた。

3) 適正な定数管理と在庫管理

・気管チューブや胃瘻用チューブの交換日がばらばらで、その日の担当者がここで行うため交換用のチューブの補充がされていない、業務の煩雑化など問題となっていた。交換日を決め、非常勤医師の協力を得て、まとめて行う事で補充や業務の煩雑化が改善された。

・患者の状態の変化に伴い新たな衛生材料も必要となる中で、不要となっているものは整理できつつある。次年度は、死蔵品のリスト作成と整備、不用品の整理と整備、コストを考えて SPD 倉庫の定数や製品の比較検討など継続課題として取り組みが必要である。

【2 病棟】

1. 利用者様の個別性と尊重を前提とした生活環境の質の向上を目指す。

1) 利用者様のケアの充実を図り、看護・療育との共同で安全・安楽からの潤いを提供します。

○身体清潔面では、週 3 回の入浴の実施、体調不良時の全身清拭、
感染症時の保清等確実なケアを実施できたと考える。

○ケアの充実を図る為に A チームを 2 グループ（東、南）に分け業務にあたった。各グループ（最低看

護師2名、療育2名）が看護師、療育が共同して業務を行うことで責任が明確となり、業務が抜けたり、責任の曖昧さがなくなってきた。その日の予定も確認や相談することで、より利用者に安楽を提供することができてきた。

○安全面では、Bチームからのヒヤリハットが多い。特に転倒が多く、特異的な行動する利用者に対しての予測性に基づいたケアがまだできていない。限られたスタッフなかで、どう見守りをしていくか課題である。

○与薬については、これまで薬の提供間違い、とくに食事のお盆ごと間違えてしまってるいわゆる思い込みをなくすために、お盆ごと名前の確認、薬の確認を行うようにした。幸い導入以降の誤薬はない。

○ヒヤリハットの内容を全員が共有出来るように、コピーし閲覧出来るようにしたことで、起きた事案に対して全員が認識出来るようになってきた。

2)．日常支援が主な利用者様、支援活動。レクレーションを通して日々の生活にメリハリを考えたサービスの提供を実施する。

○活動や外出の年間計画を立てる事ができなかった。全員外出は出来たが、計画的に外出できていなく担当の思いでで終わってしまった。個別支援計画に反映できていなく次年度は計画的に個別支援計画に基づいた支援

3)．個別支援計画の充実と日々の活動の記録を確実にしより良いサービスの提供を目指す・

○個別支援計画の目標のズレがあり、本人に見合った支援ができていたかは疑問となることがあった。記録も活動した時の記録はあるが、それ以外はあまり記録されていなかった。

2．快適で安全な信頼ある看護・療養環境サービスの向上を目指す。

1)ショート利用者様の利用を促進させる為に、家族様の要望対応できる質の高い療養環境を目指します。

○今年度のショート利用者は12月時点で既に昨年度を上回った。

薬剤課

平成28年11月より常勤薬剤師が産休に入り、非常勤薬剤師3人にて業務を引き継いだ。

業務内容は以下の通りである。

- ①定期薬の調剤、監査
- ②臨時薬の調剤、監査、払い出し
- ③医師への疑義照会
- ④医師定期処方箋発行業務の代行
- ⑤メール、インターネットでの医薬品情報の収集（PMDA メディナビ、SAFE-DI 等）
- ⑥医薬品管理（在庫の確認、発注、返品、期限の確認、病棟ストック薬の見直し）
- ⑦採用薬リストの更新
- ⑧医療監査項目の整備
- ⑨医薬品業務手順の見直し
- ⑩メーカーによる医薬品説明会の調整

また、薬剤課が深くかかわっている委員会は以下の通りである。

I. 感染対策委員会

月1回部課長会日の14:00より開催。

医師、看護師、療育、訓練課、栄養課、総務各課の代表と薬剤師により構成される。

活動内容は以下の通りである。

園長作成の感染症レポートにて院内感染の発生動向を委員会にて早期に把握し、利用者及び職員への伝播を最小限に食い止める。

また、院内における感染防止マニュアルの作成および改定は委員会の協議のもと行う。

医師（園長）による勉強会も開催時に行われ、職員全体でのスキルアップを図っている。

また、インフルエンザ発生等の緊急時は園長召集による臨時感染対策委員会が開かれ対策の検討を行う。

ICTラウンドは月1回第2木曜日10:00より医師、看護師、薬剤師が行う。

病棟での感染対策が継続して行われているかを項目別に確認する。

疑義項目があれば適宜検討する。

最後に

常勤薬剤師の産休により非常勤薬剤師へ引き継いだ1年であった。

業務内容に熟知した薬剤師3人の連携プレーにて、調剤等に支障をきたす事がなかったのは幸いである。

ここで、勤務時間の縮小により医師・病棟より多大な協力を得たのは感謝すべき事実である。

また、調剤過誤及びヒアリ・ハットのなかった事も評価される内容であった。

今後も、薬剤師同士が連絡を密にして不良在庫の改善、在庫額の減少及びコスト意識向上を念頭においた薬局運営を続行しなくてはならない。

また、最も大事な事は利用者さんに不利益の及ばない薬剤服用に薬局が大きく貢献する事とである。

H. 29年4月～H. 30年3月 処方箋枚数、剤数

		外 来			入院(臨時)		入院(定期)		入院(臨時)
		剤数	枚数	注射(枚)	剤数	枚数	剤数	枚数	注射(枚)
H. 29年	4月	91	43	0	439	366	2012	280	32
	5月	39	25	0	302	246	2515	350	56
	6月	41	25	0	256	198	2012	280	32
	7月	40	23	0	194	243	2012	280	15
	8月	28	20	0	280	244	2012	280	38
	9月	32	14	2	195	171	2012	280	18
	10月	19	12	0	288	248	2515	350	31
	11月	45	22	0	264	221	2012	280	16
	12月	40	17	0	257	218	2012	280	13
H. 30年	1月	38	21	0	236	205	2515	350	24
	2月	50	25	0	227	180	2012	280	15
	3月	59	28	0	260	208	2012	280	37
	合計	522	275	2	3198	2748	25653	3570	327
	AVE. (Month)	44	23	0	267	229	2138	298	27
	AVE. (Day)	2.1	1.1	0.0	12.8	11.0	102.6	14.3	1.3

栄養課

食事提供においては、昨年度と引き続き大きな事故もなく無事終えることができた。

厨房の人員は昨年度末に委託会社側との協議の結果、責任者を含め交代があった。このことにより体制も安定し、業務も問題なく行われて今に至る。

施設側の栄養士体制も昨年度2月末に栄養士が退職となり1名体制での年度初めとなった。昨年度育休中であつた管理栄養士に一部の業務を分担しながら、募集を続けた結果、11月より再び栄養士を採用し2名での体制で栄養課の運営を行うことができた

<反省・評価>

年度前半で、施設側管理栄養士の病欠等があり前年度の課題等の整理まで行き着くことができなかった。年度後半より栄養士が増員され2名体制での運営が可能となり、次年度に向けた課題の整理を行った。ゼリー食の導入して2年が経ち、さまざまな問題点もみえてきた。問題点を明確にし、次年度への課題としたい。また、経管栄養での栄養補給をしている患者さまについて、市販の栄養剤からミキサー食（注入食）への転換もすすめていきたい。

給食管理・栄養管理においては、引き続き事故のないよう食事提供を継続していくことが最大の課題となる。

<平成30年度の目標・課題>

- ・ゼリー食の提供継続と課題の整理
- ・安心・安全な食事の提供
- ・栄養（再）評価およびNST運営の継続

《給食委員会》

委員会メンバー：医師・看護師長・療育主任・言語聴覚士・調理師または栄養士・管理栄養士

内容： 利用者の『食』に付随する事を、それぞれの専門知識を有する病棟スタッフと協議する委員会。

毎月1回実施。栄養課と病棟スタッフや他の専門職との意志疎通や連携を図る重要な機会である。

また、今年度は病棟体制の都合上、開催時間縮小し、参加メンバーが各病棟の管理職が担うことになった。前年取り組みの摂食嚥下勉強会については、一旦完結となり、必要に応じて病棟から課題発信をしてもらうこととした。

【平成29年度の主な取り組み】

- ・食事関連のヒヤリハット事例の報告
- ・配膳時間など病棟と厨房との業務調整
- ・食事評価の報告の場
- ・病棟お誕生日会の実施方法
- ・感染症発症時の食事対応の確認
- ・訓練課茶話会の開催日程確認
- ・行事食の報告

【平成29年度まとめ】

前年に引き続き、管理職を交えた委員会構成。ゼリー食も定着し、味見食や聞取りによる嗜好調査を日常的に行うことによりきめ細かい対応ができている。参加している各管理職の協力もあり、日々の給食提供もスムーズに行うことができた。

厨房委託業者には毎回参加してもらうことにより、お互いの信頼関係を築くと共に、積極的な意見交換が出来たと感じる。次年度も引き続き、積極的な意見交換を行いより良い給食の提供に努めたい。

【次年度予定】

次年度も引き続き同じ形式で運営される。

平成29年度 行事及び時節献立一覧表

開催月	日付	項目	主な内容
4月	複数日	春メニュー	豆ごはん、春野菜の天ぷら、いちご、春野菜料理
5月	5月5日	こどもの日	ミートスパゲッティ、いちご、こいのぼりケーキ
6月	複数日	夏メニュー	冷やし中華、冷やしそうめん、冷しゃぶ
7月	7月7日	七夕	七夕そうめん、蒸しシュウマイ、スイカ、七夕レアチーズ
	7月25日	土用の丑	うなぎの蒲焼、ひじきと胡瓜の酢の物、メロン
	7月23日	夏祭り	焼きそば、たこ焼き、青梗菜のお浸し、ショコラバナナムース
8月	複数日	夏メニュー	夏野菜料理
9月	9月15日	十五夜	お月見ケーキ
	複数日	秋メニュー	きのこカレー、茶碗蒸し、栗ごはん
10月	10月28日	秋祭り	きのこカレー、コールスローサラダ、もものケーキ
	複数日	秋メニュー	さつま芋ごはん、秋野菜料理
11月	複数日	秋メニュー	きのこカレー、秋野菜料理
12月	12月16日	クリスマス会	ハンバーグカレー、ほうれん草とトマトのサラダ、フルーツポンチ クリスマスプリンアラモード
	12月25日	クリスマス	ミートローフ、白菜のチャウダースープ、クリスマスモンブランケーキ
	12月31日	大晦日	年越しそば、鱈の酒蒸し
	複数日	冬メニュー	茶碗蒸し、冬野菜料理
1月	1月1日	お正月	赤飯、おせち、雑煮、お正月ケーキ(栗のロールケーキ)
	1月7日	七草	七草けんちん汁、鶏の竜田揚げ
	複数日	冬メニュー	冬野菜料理
2月	2月3日	節分	恵方巻き、野菜の炒り煮、すまし汁、豆まききなこプリン
3月	3月3日	ひな祭り	春の散らし寿司、南瓜のそぼろ煮、すまし汁、お節句ピーチムース
	3月27日	力士交流会	ちゃんこ鍋
	複数日	春メニュー	春野菜料理

※ 毎月誕生日会に手作りケーキ、注入者へはジュース提供

院内約束食事箋及び行事食写真

一般食

食種	熱量 kcal
常食	A 1500
	B 2000
全粥食	1380
ペースト食	1190
流動食	770
低カロリー食	1200

特別治療食

食種	熱量 kcal
脂質異常食	1400
低脂肪食	1572



手作りおやつシリーズ



桃の節句



節分



訓練課

常勤セラピスト各々が自己研鑽することができた。回数は少ないながらも、訓練課内で研修会の報告など、知識及び利用者様についての情報の共有が出来た。次年度はセラピスト同士が情報共有できるように、一人の利用者様を同時に見て検討しあう時間を設定する。

平成 30 年度は 2 名の常勤 PT が就職する予定である。PT、OT、ST の 3 職種が揃うので、連携と意思疎通を図りながら訓練課内の業務の見直しを進めていく。引き続き対外的な発信は継続して行っていく。(作品展への応募、学会等での積極的な参加や発表、就職説明会への参加など)

【OT】

利用者様への理解をさらに深めることができた。訓練効果を日常に般化し、利用者様の生活をより豊かにするために、セラピストが OT としての専門性を高め、より良いリハビリテーションを提供できるよう努めた。今年度は定期的な症例検討会を計画していたが、継続して行うことはできなかった。平成 30 年度は検討会を月に 2 回以上実施し、QOL の向上につながるように努める。

グループ訓練では年間を通し取り組み、各利用者様方が持つ能力や特性を活かすことができた。方法や道具を工夫したことで、より多くの利用者様がグループ訓練に参加することができた。しかし、グループの数が増えたことにより、①スケジューリング、②管理方法（備品や環境、作品）、③参加者の偏り、などの課題が明確になった。次年度はそれらの課題を踏まえ、計画的に進める。

【ST】

個別訓練では、利用者様それぞれに合わせた訓練を実施し、機能の維持・向上に努めることが出来た。また、利用者様の状態に合わせ、必要に応じたカンファレンスや話し合いを持つことを進め、適宜対応できるよう取り組んできた。

摂食訓練では利用者様の個別性に合わせた咀嚼・嚥下機能の評価、機能に合わせた食形態の評価を行い、介助方法・環境設定を検討し、意見交換することで安全な食事時間の提供を実施することが出来た。

病棟との話し合いの機会が増えたことで、利用者様の出来ること、困っていることが共有でき、多職種においても統一した関わりへと繋がる意識を持つことが出来た。

【グループ訓練】

OT と ST が共同で行っている茶話会と喫茶店は継続でき、訓練後は毎回の振り返りを行った。その中で、セラピストが考える利用者様の個々の目標や評価について検討しあうことで、利用者様のできる作業が増えた。

【他職種との連携】

利用者様の生活について病棟職員とともにポジショニングや日常生活上の対応などについて検討した。また、栄養課とは、今年度も『畑プロジェクト』を通じて園芸で収穫した作物を喫茶店やイベントで、加工して提供するなどで連携することが出来た。書類や写真など情報が形として残る方法を実施することで、他職種との連携を円滑に進めるように努めたが、情報共有が円滑でない場面もあった。病棟をはじめとする他職

種とのコミュニケーションを図り、情報を共有できる、協力体制を作っていきたい。

また、訪問教育の先生方とも連携し、就学児の発達を促せるよう具体的に話し合い、進めていきたい。

地域支援

延べご利用者数、外来数

H29年度 ご利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1病棟	在院患者延べ数	810	837	789	826	870	829	868	840	868	868	782	868	10,055
2病棟	在院患者延べ数	1,150	1,207	1,145	1,178	1,178	1,157	1,186	1,161	1,208	1,209	1,091	1,191	14,061
合計	在院患者延べ数	1,960	2,044	1,934	2,004	2,048	1,986	2,054	2,001	2,076	2,077	1,873	2,059	24,116

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月末患者数(児)	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5.8
月末患者数(者)	61	61	61	62	61	61	61	61	61	61	61	61	61.1
月末患者数 計	66	66	66	68	67	67	67	67	67	67	67	67	66.8

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
外来患者数	122	130	131	140	134	105	94	262	159	113	86	113	132.4

【短期入所】

平成 29 年 2 月より、急激に短期入所の希望者が増加し、新しく短期入所を利用された方は現時点（平成 30 年 3 月）において、新しく 8 名増えている（診察を受けた方は 10 名）。春先より短期入所の利用のための診察をコンスタントにおこなってきたが、まだ診察が出来ていない方が数名おられる状況である。短期入所は空床利用型であり、夏期に病棟で新入所者 2 名を受け入れたため、1 階病棟の短期入所受け入れに制限がかかったにも関わらず、現時点における短期入所利用者の実人数（165 名）、延べ人数（189 名）、延べ日数（778 日）となっており、昨年の利用者の実人数（122 名）、延べ人数（143 名）、延べ日数（591 日）を大幅に上回っている。

昨年目標に掲げていた人工呼吸器の短期入所の受け入れは依然としてハードルが高く、まずは入所を先に受け入れることで職員が対応に慣れてからと判断した。一方で、昨年に引き続き、他業種の方々の多くの力添えて「重症心身障害児・者レスパイトケア体制整備事業」を無事開催することができた。今後いっそう増加する医療的ケア児に対しても、家族のレスパイトの意義は大きく、短期入所の果たす役割はより大きくなるものと思われる。

【基本相談】

入所および短期入所の受け入れに関して 2 3 件の相談があり、新しく入所された方は 2 名、短期入所利用のための診察を受けた方は 10 名おられる。

計画相談に関しては、施設入所者が 59 名と在宅の方が 2 名となっている。最初の計画作成から 3 年が経過し、障害支援区分認定調査を経て、新たな計画を作成する時期にあたっている。市町村の大半がモニタリング月を 3 月末に設定しており、作成期間が偏ってしまう現状があり、それぞれのサービス管理責任者、およびサービス担当者とのタイムリーな情報共有が望まれる。昨年目標に掲げていたサービス等利用計画の質の向上に伴う、会議や研修には参加できたが、在宅における計画作成はまだ課題が多く、今後も他事業所の勉強会に参加するなどして、在宅の方の相談支援に繋げていきたい。

また社会福祉事業の本来の目的から、地域の中の施設の視点で障害を持つ方だけに捉われない支援の在り方を「まほろばレスキュー事業」に参加する中で見出せればと考えている。

【平成 30 年度 地域支援目標】

- ・入所調整会議の定期および適宜開催
- ・サービス等利用計画の質の向上
- ・医療的ケア児等コーディネーター養成研修の受講
- ・まほろばレスキュー事業の参加

奈良県委託事業

事業名：重症心身障害児・者レスパイトケア体制整備事業

委託料：1,836,000 円

内 容

○『交流セミナー』

日時：平成 30 年 1 月 20 日（土）13:00～16:00

場所：奈良市総合福祉センター

参加者数：46 名

日時：平成 30 年 2 月 3 日（土）13:00～16:00

場所：エルトピア中和

参加者数：51 名

○『障害福祉サービス（療育）体験会』

日時：平成 29 年 11 月 11 日（土）13:00～15:00

場所：奈良市総合福祉センター

参加者数：54 名

日時：平成 30 年 2 月 17 日（土）13:00～15:00

場所：明日香養護学校

参加者数：38 名

○『重症児者支援に関する研修会』

日時：平成 29 年 10 月 14 日（土）13:00～15:00

場所：奈良市総合福祉センター

参加者数：24 名

日時：平成 29 年 12 月 2 日（土）13:00～15:00

場所：エルトピア中和

参加者数：47 名

29年度 園内研修年間報告

No.	研 修 項 目	担当課・委員	日程	曜日	時間	備 考 欄	実施人数
1	診療報酬について	医事	4月26日	水	17:45～		14
2	介護実習指導者研修報告	療育	5月10日	水	17:45～		12
3	医療安全管理体制について	医療安全	5月24日	水	17:45～		17
4	個別支援計画について	伝達	5月31日	水	17:45～		16
5	サービス管理責任者研修報告	療育	6月14日	火	17:45～		17
6	防犯訓練	防犯	6月22日	木	15:30～		32
7	褥瘡対策 デザインR	褥瘡対策	6月28日	木	17:45～		18
8	サービス等利用計画について	地域支援	7月12日	水	17:45～		8
9	ストラスボメント	労働安全	8月9日	水	17:45～		延期
10	褥瘡対策	褥瘡対策	8月23日	水	17:45～		14
11	個別支援計画について	個別支援委員会	9月13日	水	17:45～		14
12	安全な爪切り	伝達	9月20日	水	17:45～		16
13	防災対策	防災委員	9月29日	金	17:45～		16
14	ストラスボメント	労働安全	10月11日	水	17:45～		16
15	研修報告	療育	11月8日	水	17:45～		10
16	個人情報保護法	医療安全	11月21日	火	15:30～		36
17	NST活動について	NST	12月13日	水	17:45～		18
18	医療安全（ヒヤリハット）	医療安全	1月17日	水	17:45～		15
19	おむつ研修	1病棟	1月18日	木	15:30～		15
20	おむつ研修	2病棟	1月19日	金	13:45～		5
21	研修報告	療育	1月24日	水	17:45～		12
22	訓練課の取組	訓練課	2月28日	水	17:45～		12
23	障害者総合支援法について	地域支援	3月14日	水	17:45～		10
24	研修報告（感染）	看護療育	3月28日	水	17:45～		16

平均参加者数

15.6

防災訓練実施報告

平成29年度	回数	参加人数	実施日
避難訓練	13	131	4/18・5/16・6/20・7/18・8/15・9/19・10/17・10/22・11/14・12/12・1/16・2/20・3/20
救助訓練	1	50	H29.10.22
通報訓練	13	168	4/18・5/16・6/20・6/22・8/15・9/19・10/17・10/22・11/14・12/12・1/16・2/20・3/20
消火訓練	12	81	4/18・5/16・6/20・7/18・8/15・9/19・10/17・11/14・12/12・1/16・2/20・3/20
防災訓練	9	139	4/18・5/16・7/18・8/15・10/22・11/7・11/14・1/16・2/20

- H29.6.22 不審者侵入対応訓練
- H29.9.29 園内講習「みんなで取り組む防災対策(非常災害計画を立てる方法)」奈良市総合政策部危機管理課
- H29.10.22 長雨と台風21号により新池・川向池が満水 イオンハウスと春日病院に土砂災害・名張線道路不通。
(台風21号)水がバルツアに向かって流れ込んでいるため念のため、1階利用者29名を2階ABディルームに避難する。
- H29.11.7 停電点検 竹中電気設備管理事務所

訓練テーマ

H29.4.18 緊急連絡網確認。夜間体勢、水害土砂災害、消防設備、避難経路等確認。防犯訓練報告	9	避・通報・消・防災
H29.5.16 消防設備館内配置図・避難経路点検、土砂災害時の垂直避難等(コンセント位置)	3	避・消・通報・防災
H28.6.20 防犯訓練予行練習報告・消防確認事項報告・消防設備、避難経路点検	5	避・通報・消・防犯
H28.6.22 不審者侵入対応訓練		
15:30～16:00 奈良警察署員5人・警視1人、生活安全課1人、日防災1人、テルウェル1人・NHK奈良放送局3人、産経新聞1人 バルツア・ゴードル職員29人、奈良養護学校教員2人	44	防犯
H29.7.18 防災訓練:台風、停電、土砂災害を想定して非常食を2階エレベーターホールに運ぶ。	7	避・消・防災
H29.8.15 非常食アンケート結果。次回全体消防訓練(通報・初期消火・避難誘導)のシュミレーション	5	避・通報・消火・防災
H29.9.19 1階居室から火災、当日職員で協力して初期消火、避難誘導する。事務所は通報・館内放送	12	避・通報・消火
H29.10.17 消防設備、避難経路点検・前回訓練の改良点をあげる。	5	避・通報・消火
H29.10.22 長雨と台風21号により新池・川向池が満水 イオンハウスと春日病院に土砂災害・名張線道路不通。 水がバルツアに向かって流れ込んでいるため念のため、1階利用者29名を2階ABディルームに避難する。	50	避・通報・救助・防災 水害・土砂災害
H29.11.7 停電点検による停電体験訓練	50	防災
H29.11.14 消防設備、避難経路点検。前回の水害についてアンケートをとり、話し合う。 次回夜間想定訓練シュミレーション	5	避・通報・消火・防災
H29.12.12 夜間想定訓練 消防マニュアルを使用し、消防設備と避難経路のオリエンテーション・役割分担 水消火器4本で初期消火訓練	15	避・通報・消火
H30.1.16 消防設備・避難経路点検 土砂災害マニュアル作成 バルツア・ゴードル防災計画書(案)について	5	避・通報・消火・防災
H30.2.20 「土砂災害に関する避難確保計画」説明 平成30年度防災計画について 安全点検票(案) 消防設備・避難経路点検	5	避・通報・消火・防災
H30.3.20 消防設備・避難経路点検 安全点検票内容の見直し	5	避・通報・消火

225

実習・見学ほか

奈良県立高円高校(評議員)
東市地区社会福祉協議会(評議員)

【実習】

関西学研医療福祉学院(作業療法士臨床実習) 平成29年5月8日～7月1日 2名
奈良学園大学(看護実習) 平成29年5月15日～平成29年6月9日 8名
関西学研医療福祉学院(介護実習) 平成29年6月26日～6月30日 2名
帝塚山大学(教員免許取得介護等体験) 平成29年7月3日～7日 2名
ハートランドしぎさん看護専門学校(小児看護学実習) 平成29年7月19日～11月1日 36名
大阪保健福祉専門学校(小児看護学実習) 平成29年7月20日～9月5日 7名

白鳳短期大学（保育実習） 平成 29 年 8 月 14 日～25 日 1 名
 奈良佐保短期大学（介護実習） 平成 29 年 8 月 29 日～9 月 15 日 3 名
 近畿大学（臨床栄養学） 平成 29 年 9 月 11 日～22 日 2 名
 奈良佐保短期大学（保育実習） 平成 29 年 11 月 6 日～11 月 17 日 1 名
 兵庫医科大学（早期臨床体験実習） 平成 29 年 11 月 20 日～12 月 15 日 2 名
 関西学研医療福祉学院（作業療法士臨床実習） 平成 30 年 2 月 5 日～3 月 1 日 6 名
 武庫川女子大学短期大学部（保育実習） 平成 30 年 2 月 8 日～22 日 2 名
 帝塚山大学（保育実習） 平成 30 年 3 月 12 日～4 月 6 日 6 名

【見学】

奈良教育大学教育学 平成 29 年 6 月 8 日（木） 3 名
 奈良市飛鳥中学（福祉施設交流体験学習） 平成 29 年 6 月 12 日 10 名
 奈良佐保短期大学（地域こども学科） 平成 29 年 6 月 15 日・6 月 29 日 各 15 名
 明日香養護学校（施設見学） 平成 29 年 8 月 2 日 9 名

地域交流（ボランティア等参加者数）

平成 29 年 7 月 22 日（土）納涼祭 76 名
 平成 29 年 10 月 28 日（土）バルツァフェスティバル 156 名
 平成 29 年 12 月 16 日（土）クリスマス会 75 名
 平成 30 年 2 月 21 日（水）USJ コミュニティ・プログラム エルモとクッキーモンスター 60 名
 平成 30 年 3 月 27 日（火）力士交流会 153 名

平成 29 年 8 月 16 日（水）東市高円の杜夏まつり出店
 平成 29 年 10 月 8 日（日）鹿野園町秋祭り（神輿巡行）
 平成 30 年 2 月 7 日（水）東市地区各種団体新年交流会

寄付・助成金等

事業名	名称	適用
フィランソロピー協会バンク配布金	日本フィランソロピー協会	セラピーマット他 162,842 円
24 時間テレビ 福祉車両贈呈	24 時間テレビチャリティー委員会	リフト付きバス 4,401,306 円